

第2回 市民ワークショップ

「まちづくりにつながる公共施設の使い方」 をテーマにグループ討論を行いました

令和元年9月19日（木）、中条会館で第2回「地区の公共施設について考える」市民ワークショップを開催しました。

まず、施設の老朽化や人口減少、少子高齢化などの課題について、「おさらい」を行いました。続いて、信州大学工学部寺内研究室の学生の皆さんから、各グループの前の議論についてのまとめを発表していただき、それらを参考に、各グループが課題を決めて、解決方法などについて活発な討論が行われました。

ご参加いただいた皆さま、ありがとうございました。

公共施設の状況（おさらい）

- 施設の老朽化／築30年以上が47%（6月公表）
- 人口減少／H12年（387,911人）をピークに減少
H52年には30万2千人に！（約22%減）
- 少子高齢化／生産年齢人口（支える世代）の減少
高齢化に伴う社会保障費の増加

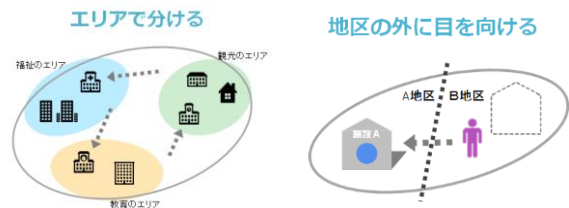
公共施設マネジメントが必要

いつやるの？

今でしょ
公共施設のかしこい見直し方
とは？

複合化・集約化すると、いろいろなメリットが...

- 「人が集まることによる活性化」「移動時間短縮」
- 「多世代交流」「人員配置の効率化」
- 「共用部分の削減（エントランス、廊下、トイレ）」などなど



将来まで残す施設のコストは、将来の市民が負担します。
→将来まで残していく施設はどれですか？

グループ討論の様子



熱心に話し合っていました



◇ワークショップの結果、中条地区の公共施設に対するご意見・ご質問などありましたら、遠慮なくお聞かせください。



長野市ホームページ
（市民ワークショップのページ）
をご覧ください。

<https://www.city.nagano.nagano.jp/site/koukyou-ws/>

【お問い合わせ先】

公共施設マネジメント推進課

電話：224-7592

中条支所

電話：268-3001



グループ発表の一部をご紹介します

【Aグループ】中条から“Nakajo”へ

- ◇QRコードで施設の空き情報に、誰もが手軽にアクセスできるようにする。
- ◇住民一人ひとりが中条アンバサダーとなり、地域の応援者となって情報を発信する。
例) 住民が中条オリジナル名刺を持ち、外部の人と会うときに渡す。
- ◇音楽堂の例：芸術家に住んでもらい活動を情報発信してもらう。長野市芸術館とのコラボ。

【Bグループ】“中条らしい”公共施設の使い方・PRを考える

- ◇根底には中条のPRが必要という思いがある。
- ◇虫倉山や山姥伝説といった中条の代表的なイメージが、近年、薄れつつある。
- ◇加工施設の利用者が一部にとどまっている。もっと広い利用者に向けた施設のPRが必要。
- ◇山姥の焼き印を押したおやきの開発。やきもち家を合宿に使ってもらう。四季を通じたPR。

【Cグループ】施設を活用した活性化

- ◇結局は中条が好きで、中条を盛り上げたいという思いがある。
- ◇課題として、あまり使われていない施設や、各施設の関連性がない場所がある。
- ◇やきもち家の温泉と道の駅の食事で連携する。また、ジビエ加工施設の加工と、道の駅でのジビエの食事で連携するといったことが考えられる。

【Dグループ】高齢者がいきいき暮らせる中条

- ◇「仕事でいきいき」：共同作業により活気が生まれ、道の駅で『売る楽しさ』が生きがいに
- ◇「運動でいきいき」：虫倉山エリアに運動の拠点、中条音楽堂に室内運動場の機能を
持たせる。運動の後はやきもち家へ。体力の増強と癒しによる健康づくりを促す。
- ◇将来に残す施設の選択は、地域住民が愛着を寄せる場所や施設とする。

【Eグループ】中条が持つ地産地消の魅力

- ◇農産物の「生産→加工→販売」流れをスムーズにする。
- ◇「特産品開発センター」では、惣菜、ジュース、ビン詰めの加工許可を得ている。しかし、施設の使い方が分からない人もいる。
- ◇中条の農産物や加工品を通して、中条の魅力を発信したい。

参加者アンケートから

- ◆中条の強み・特徴を皆で共有することが大切！これを皆で話合う必要がある。
- ◆関連性を持たせて施設を利用してもらうなどストーリーを作っていくことが大事だと感じた。
- ◆地元が好きで何とかPRしたいという気持ちがどのグループにもあった。
- ◆やさしい山姥の伝説の話は面白かった。利用状況確認やPR等にQRコードを使うのは面白い。

アドバイザーの寺内美紀子先生(信州大学工学部教授)のコメントを紹介します



中条らしさとか、あるいは自分達の愛着がある場所というか、難しい言い方をすると「アイデンティティ」にこだわるといえるのが出てきたということは、とてもいいことだと感心しました。施設を考えるということは、結局はそれを使う人だったり、それを何のために使うのかを考えないといけない。大変重い課題ですが、常に何のためにやるのかを心においていただいて、次回もこの調子で頑張っていけたらとてもいいワークショップになると思います。

10月24日(木)は最終回！中条の公共施設の将来像を考えます！